

廣瀨治兵衛君著和鏡聚英續和鏡聚英ニ對スル授賞審査要旨

本書ハ正編三卷三冊續編二卷二冊ヨリ成リ、和鏡ノ背面ニ鑄出サレタル構圖ノ圖譜ナリ。刊行ノ前後ニヨリ、正編續編ノ二帙ニ分ツト雖モ、採録スルトコロノ構圖ニ優劣ノ差ヲ設クルニアラズ、二帙ヲ合シテ完璧ヲ爲スモノニシテ、和鏡概説ヲ續編ノ卷首ニ置ク。採録セル構圖ハ、其ノ意匠ノ變遷推移ニ基キテ之レヲ平安時代前期、平安時代後期、鎌倉時代、吉野朝時代、室町時代、安土伏見時代、江戸時代ノ七期ニ分ツ。正編ニ於テ平安時代前期二面、平安時代後期二百四十一面、鎌倉時代百三十八面、吉野朝時代五十一面、室町時代七十面、安土伏見時代六面、江戸時代七面、小計五百十五面、續編ニ於テ、平安時代前期四面、平安時代後期百十九面、鎌倉時代七十八面、吉野朝時代四十面、室町時代三十三面、安土伏見時代十二面、江戸時代十四面、小計三百面、通計平安時代前期六面、平安時代後期三百六十面、鎌倉時代二百十六面、吉野朝時代九十一面、室町時代百三面、安土伏見時代十八面、江戸時代二十一面、總計八百十五面ヲ製作ノ年代順ニ配列セリ、悉ク秀逸ニシテ優ニ標準トナスニ足ルモノノミニ限ル。

著者弱冠ニシテ和鏡ノ研究ニ從ヒ、ソノ研究ニヨリ、美術工藝史ニ一新生面ヲ拓ク志ヲ起シ、全國ヲ探訪シテ古鏡ヲ窮搜スルコト殆ド二十年、海内ノ和鏡殆ド目ニ觸レザルナク、其ノ鑑査シテ手拓セラル揚影ノ優秀ニシテ豊富ナル他ニ匹儔アルヲ見ズ、是ヲ以テ嚮キニ和鏡圖譜ヲ著シ和鏡ニ關スル其ノ

學說ヲ公表シテ、研究ノ指鍼ヲ示シ、後ニ又本書ヲ公ニシテ研究ノ成績ヲ發表シタリ。刊行スルトエロノ圖版八百十五葉ハ悉ク著者ノ手拓本ヲ撮影シテ製版セルモノニシテ、揚摹ノ精緻ナル、印刷ノ鮮明ナル、此ノ種ノ刊本ニ期待スベキトコロニ副ヘリ。又一面ゴトニ文様ノ材名、鈕、座、圈、縁、柄ノ形式寸法、金質、鏡歷、重量、所藏者ヲ具載シタリ。本書刊行ノ目的ハ、最モ重要ニシテ且ツ目視シ易カラザル和鏡ノ文様ヲ圖示スルニ在ルヲ以テ、和鏡ニ關スル詳細ノ論述ハ姑ク之ヲ省略シ、續編ノ卷首ニ「和鏡ニ就テ」ト題スル概説一篇ヲ載セテ自家研究ノ結果ヲ陳述シタリト雖モ、尙ホ圖版ノ豐富ナルニ伴ハザル憾ナシトセズ。仰モ本邦ニ於ケル鏡ノ製作ハ、初メ専ラ支那ノ製品ヲ模造スルニ止リシガ、平安時代後期即チ所謂藤原時代ニ至リテ、漸ク本邦固有ノ趣味ニ合セル和鏡ナルモノ、製作起リ、藤原氏全盛ノ時其ノ技術頗ル發達シ、國民藝術トシテノ和鏡ハ漢鏡ニ比シテ遜色ナキニ至レリ。鎌倉時代ニ入リテハ、其ノ技術益々醇熟シテ温雅精緻ヲ極メ、久シク重用サレシ唐式ハ之レガ爲ニ殆ド跡ヲ絶チシニ、禪宗渡來シテ其ノ影響亦鏡ノ製作ニ及ビ、漢式ノ色彩稍著明トナリ以テ吉野朝時代ニ移レリ。室町時代ニ進テハ、更ニ唐式手法サヘ模倣シタルモノ出デシモ、此ノ間マ、歌繪等ヲ用ヒ、和漢折衷ノ裡ニモ、ヨク雅趣ヲ保テリ。安土伏見江戸時代ニ降リテハ、概ネ固キ文様多クシテ餘情ニ乏シク、藝術的價値ハ減少セシモ、恰モ柄鏡流行シテ近代の藝術ヲ代表シタリキ。乃チ和鏡様式ノ沿革ハ、(一)本邦ニ於ケル藝術發達ノ大勢ヲ明ニ反映シ、(二)敬神崇佛ノ對象トシテ蔽フベカラザル信心ヲ流露シ、(三)國民思想ノ變遷ヲ縮摹シテ之レヲ圖示スルモノト見做スベク、著者ハ此ノ變遷發達ノ

徑路ヲ精細ナル學術的考證ニヨリテ一旦瞭然タラシメタリ。

之レヲ要スルニ、本書ハ和鏡ニ關スル學術的研究ノ嚆矢ト稱スベク、嚴密ナル方法ニヨル蒐集研究ノ結果、本邦ノ美術工藝史ニ一新生面ヲ拓キ、以テ學術ニ寄與シタル功績ハ顯著ナリト謂フベシ。